

目次

はじめに *iii*
謝 辞 *xi*
凡 例 *xiii*

I 現代麻酔科学の黎明

- 1 Meyer Saklad 来日前の気管麻酔の情報 3
- 2 気管麻酔の技術習得者・石川七郎の帰国 12
- 3 林 周一と国産初の閉鎖循環式麻酔器 20

II Meyer Saklad の講義

- 1 Unitarian Service Committee 医学使節団の来日と Meyer Saklad の講義 33
- 2 Meyer Saklad の“麻酔特集”に与えた影響 39
- 3 清水健太郎による麻酔科学関連用語の造語 45
- 4 草創期のアメリカ留学 51

III 日本麻酔学会（日本麻酔科学会の旧名）の設立

- 1 “日本麻酔学会”はなぜ1954年に設立されたか 61
- 2 文部省総合研究“麻酔班”の発足 70
- 3 武藤完雄の第54回日本外科学会における発言 78
- 4 “麻酔研究会”と“麻酔懇談会” 84
- 5 第1回東京麻酔専門医会総会の集合写真 91
- 6 国外名誉会員から見た諸外国の影響 99

IV 麻酔標榜医と麻酔指導医

- 1 史料「我国及び外国における麻酔医の現況」 109
- 2 山村秀夫の厚生大臣に対する“要望書” 117
- 3 天野道之助の政府に対する“要望書” 124
- 4 麻酔標榜医の認可の背景 131
- 5 麻酔標榜医の認可前後の諸問題 145

目 次

- 6 山村秀夫の“麻醉標榜医の認可”における業績 156
- 7 第1回麻醉指導医認定試験を巡るエピソード 169
- 8 草創期の麻醉指導医認定試験の合格者 179
- 9 恩地 裕の“資格問題” 184

||||| V 日本麻醉学会の“あり方委員会” |||||

- 1 1980年の“あり方委員会”の答申 201
- 2 なぜ“あり方委員会”が再設置されたか 208
- 3 太平洋戦争敗戦前後2度の“失われた20年” 215
- 4 史料としての“学会印象記” 226
- 5 会長講演などから見た学会の60年の変遷 232

||||| VI 山村秀夫名誉教授との対談および著者の回顧 |||||

- 1 山村秀夫東京大学名誉教授との対談 243
- 2 麻醉科学史研究50年の回顧 266

||||| VII そのほか |||||

- 1 短命に終わった英文ジャーナル 285
- 2 McIntyre Collectionの遺贈と麻醉博物館への移管 290
- 3 日本語の“ペインクリニック”の語史 298
- 4 日本の“ペインクリニック”の淵源：Härtelのガッセル神経節ブロック 306
- 5 *The History of Surgical Anesthesia*の著者Thomas E. Keysの来日 318

||||| VIII 「日本の現代麻醉科学の歩み」の要旨 329 |||||

||||| IX English Abstracts of *The History of Contemporary Anesthesiology in Japan* 339 |||||

- 初出一覧 357
- 索引 361